

平成 26 年度  
 生徒による授業評価に対する  
 各教科、各学年における集計結果の分析と改善点等のまとめについて

教科・学年	集計結果の分析と改善点等のまとめ
国 語	毎週の科会で各学年の学習状況を随時把握し、教材の活用方法や単元の進度を精査し、課題や小テスト、提出物の評価を着実にを行い、生徒自身が達成度を実感できるようにしていく。課題は現状の量が適当と考える。
地歴・公民	教科内での相互の授業見学を実施し、意見交換をする。教材研究を更に深めて、生徒が意欲的に取り組める授業をする。
数 学	教科会で進度や教材について意見交換をし、授業の改善に取り組む。生徒の授業への取り組みと課題提出への積極性を養う。
理 科	授業全般にわたり意欲を喚起するために、実験・実習をできる範囲で実施し、授業への積極的な姿勢を養わせたい。
保健体育	教員同士が教授法を切磋琢磨の中で、学習意欲を育てる。生徒自ら考え行動ができ、より良い人間関係構築ができるよう手助けをする。
芸 術	課題の与え方などさらに工夫し、教師側の熱意が伝わる授業を展開できるよう心がけたい。
英 語	検定や外部模試を利用しながら、長期目標としての生徒につけたい力を教科内で明確し、教科内で進度や教材について意見交換をし、授業の改善に取り組む。また、課題や小テストを課し評価することで、やればできる事を体感させ、授業や家庭学習への取り組みへの積極性を養う。
家 庭	学習意欲に差がある生徒でも興味・関心を持てるような教材を工夫し、教授法についても更に研究していく。
情 報	最先端に近いものを授業に取り入れていくように、さらに教材等を工夫したい。変化の速い分野なので、短い時間で一定の活用能力を身に付けて結果を得られるようなスキルを開発していく。
1 学年	生徒同士、教師と生徒の人間関係の確立、挨拶を通じて感謝の気持ちや、思いやりも心を育てる。学習習慣の確立、締め切り前の課題提出等、学習に対する意識の向上を目指す。
2 学年	家庭学習が不足しており、さらに家庭学習の習慣化をはかるためにも、各教科における学習課題を適切に課していくことは必要であり、学年としても生徒の学力向上が図れるよう、教科と連携して取り組んでいく。
3 学年	生徒の進路を実現するためにも、生徒一人ひとりの進路希望をしっかりと把握したうえで、教科と連携しながら授業内容の充実を図り、適切な進路指導を展開していく。